

AB1305 Disclosure (Assembly Bill No. 1305 (カリフォルニア州法 議会法案 1305 号) に関する情報開示)

2050 年目標

協和キリングループは 2050 年ネットゼロ目標（スコープ 1、2、3 全体で 90%以上削減、報告対象範囲は「[協和キリン ESG データ](#)」に記載されている過去の排出量開示で定義）を設定しています。この目標は、キリンホールディングスの SBT 目標に関連して設定されたものです。キリンホールディングス全体の SBT 目標は SBTi プロセスに従って検証されていますが、協和キリングループの目標は個別の検証を受けていません。

当社は、「協和キリン ESG データ」に記載されている排出量算定方法に従って、排出量削減の進捗状況を追跡しています。

なお、2021 年および 2022 年の Scope1、2 の排出量算定は、「[第三者保証 検証意見書](#)」並びに「協和キリン ESG データ」の脚注に記載されている通り、限定的保証の対象です。

当社は、当社グループの 2050 年目標に対する中長期目標として、2030 年と 2040 年の Scope1、2 の中間排出量目標を設定しています。

2040 年目標

RE-100 イニシアチブに関連して、当社グループは、スコープ 2 排出量に含まれる工場研究事業場の使用電力を、2040 年に再生可能エネルギー100%にする目標を設定しました。

この目標の対象範囲とスコープ 2 排出量の算出方法は、「協和キリン ESG データ」に定義しています。

当社グループのスコープ 2 排出量算定は、「第三者保証 検証意見書」および「協和キリン ESG データ」の脚注に記載されている通り、限定的保証の対象となっています（2021 年および 2022 年）。

また、当社は、富士リサーチパークや CMC 研究センター、宇部工場、高崎工場における再生可能エネルギーの導入など、当社の CO2 削減目標並びに再生可能エネルギー関連目標に関連する特定の重要なプロジェクトについて、別途説明しています。

2030 年と 2024 年の目標

キリンホールディングスの SBT 目標に関連し、当グループは、製薬・生化学産業のセクターパスウェイに基づき、スコープ 1 と 2 の排出量削減の 2030 年目標を設定しました。

2021 年には、本目標を当社グループの Scope1 と 2 の CO2 排出量を 2019 年比で 55%削減するという、より野心的な目標に更新・設定しました。

この 2030 年目標達成に向けた当社グループの戦略については、「[持続可能な社会の形成に向けた取り組み](#)」および「[TCFD 提言に基づく情報開示](#)」に記載しています。

また、当社グループは 2024 年の中間排出量目標（2019 年比で 51%削減）も設定していま

す。

当社グループは、2018年から2022年までのスコープ1と2の排出量削減の中間達成状況を、「持続可能な社会の形成に向けた取り組み」に記載しています。

当社グループは、「協和キリン ESG データ」に記載されている排出量算定方法に従って、排出量削減の進捗状況を管理しています。

この過去の排出量算定は、「第三者保証 検証意見書」および「協和キリン ESG データ」の脚注に記載されている通り、限定的保証の対象となっています（2021年および2022年）。